

STEP
01

とりあえず書いてみよう

レポートは誰にでも書ける、レポートの構成、とりあえず書いてみよう

- ・レポートが「序論・本論・結論」の構成を持つこと、その目的は伝えたいことを確実に伝えることにあること、「起承転結」のエッセイとは違うこと、を説明する回です。

準備

- ・レジメ（資料も含めて4ページ）
- ・ワークシート（1ページ）

進め方

1. レポートは誰にでも書ける

レジメのとおりです。三井物産の入社問題は次回書かせます。

2. レポートの構成

- ・資料1（レジメの3～4ページ）の二つの文章を学生に音読させて、何が違うか考えさせてください。

- ・1ページ目の下に、※印の注釈が二つあります：

→授業時間内で書くような短いレポート（次回出てくる分類だとA型・B型）の場合、序論は論点だけでなく主張まで書いてしまうのが普通です。しかし、期末レポートくらいの長さがあるレポート（次回の分類だとC型・D型）になると、主張も複雑で、序論にむりやり詰め込むことはできないでしょう。そのあたりを先回りして言っているのが一つ目の注釈です。後でまた出てくる話なので、今は詳しく触れなくてもいいです。

→二つ目の注釈は、レポートの「結論」で急に考察やら感想やらを書き始める人への注意です。

おそらく小学校・中学校で書く作文の「起承転結」の「結」と、レポートの「序論・本論・結論」の「結論」がごっちゃになっているのでしょう。

これも今回のような短いレポートではあまり問題にならないところなので、詳しく触れなくてもいいです。また後の回で触れます。

3. とりあえず書いてみよう、その1

- ・さっそく「序論・本論・結論」でレポートを書いてもらいます。

→「その1」なのは、次回の冒頭で、三井物産の入社試験の問題で「その2」をやるからです。

→ワークシートを用意しています。

→時間があれば、正解の発表前に4人くらいのグループ内で書いたものを読み合わせる、簡単なグループワークをしてください。

- ・このメモの2ページ目に、答えとその解説を転載しておきます。⑤（原文ではe）が正解です。

→個人的にはなんだか納得いかないところもありますが、まあここでは、答えが正しいかどうかではなく、ちゃんと序論・本論・結論の形で書けたかが大事なところです

→時間が、どういう風に進めるか（学生に読ませる？ 何人に読ませる？ など）は先生方にお任せします。

21 65歳の女性。腹痛を主訴として家族とともに緩和ケア外来を受診した。1年前に進行膵癌の診断で膵体尾部切除術を受け、1か月前から腹痛が出現した。局所再発、肝転移および腹膜播腫を認め、予後は2か月程度と考えられる。医師が患者に根治は困難であることを伝えた。患者は流涙したまましばらく沈黙が続いた。その後、医師が「お話を続けてもよろしいでしょうか」と声をかけると患者は頷いた。

次に医師がかける言葉として適切なのはどれか。

- a 「何か叶えたい希望はありますか」
- b 「来週落ち着いて話し合いましょう」
- c 「あまりお役にたてることはないようです」
- d 「残された余命について話し合いましょう」
- e 「今どのようなお気持ちか話していただけますか」

解説

解法の要点

患者の感情表現に対する対応を問う問題である。患者へ望ましくない情報を伝達する際のコミュニケーションスキルであるSPIKESモデルでは患者への共感（Empathy）により患者が抱く感情（ショック、孤独感、悲しみなど）を緩和することが重要なポイントの1つであり、この際患者の感情を言語化し、その理由を確認することが重要である。 **必**C10

選択肢解説

× a, d 患者の感情が収まらない場合、将来の予定や計画など他の問題について話し合うことは困難である。

× b 感情が収まるまで適切な時間を置くことは必要であり明らかな間違いとは言えないかもしれないが、予後の限られている状況では早めに適切な治療計画を立てるべきである。

× c 予後不良な疾患であっても重要な治療目標は多数あるため（疼痛コントロールなど）、このような態度は取るべきではない。

○ e 感情の言語化を助ける言葉である。 **必**C10

基本事項など

閉じる 

VOICE

こういう会話系は難しく考えず、患者さんの気持ちや考えを把握して、共感することが大事です。

STEP
02

とりあえず読んでみよう

前回のふり返り、期末レポートの実例、レポートの4つの型、ほか

- ・前回は「序論・本論・結論」というレポートの構成を示しました。今回は、実際の期末レポートを読んでもらうことで、この構成が、特に「本論」部分でケースバイケースで変わることを示すと同時に、それをいくつかの「型」を覚えてしまうことで乗り越えようというという、この教材の目的を示します。

準備

- ・レジメ+資料（6ページ）
- ・ワークシート（1ページ）

+ 進め方

1. とりあえず書いてみよう、その2

- ・前回説明した「序論・本論・結論」の構成をなぞるため、また今回は読むだけで手を動かすことがないので、前回の続きのワークを冒頭に入れました。
- ・ワークシートに書かせた後、グループ内で読み合せてください。

2. 期末レポートの実例

- ・資料1のレポート（レジメのp.5～6）を、学生に1段落ずつ読ませてください。
→資料1は見開きでみせたかったのですが、資料2をp.4に入れて、資料1をp.5～6に送っています。
- ・その後、資料2（p.4）と照らし合わせて、構成を確認してください。
→字数が増えても「序論・本論・結論」の構成は変わらないこと
→ただし「本論」の部分が3つにわかれて複雑化していること

3. レポートの4つの型

- ・複雑になった「本論」部分を、この教材ではA～D型に分けて型として覚えてもらうという、今後の流れを示します。
→大きな流れを示すだけです。A型とは何か、B型とは何かという個々の説明は、後の回で順々に、ゆっくりとしていきます。
→ちなみに次回はA型の説明と練習をします。

囲み記事「グループワークとレポート執筆」

- ・レポート執筆の練習は、書くだけではなく、簡単なグループ発表とセットですすめていきたいと考えています。そのことについて触れたものです。
→時間があれば読んでください。時間がなければ飛ばして結構です。

STEP
03

わかりやすく説明しよう

A型「説明文」の書き方、説明文の序論、説明文の本論、コピペチェッカー

- ・ 前回紹介したレポートの4型のうち、A型の説明文（授業内で書くような、資料引用がない短い説明文）を説明し、実際に書いてもらいます。
- ・ 授業2回分を想定しています

準備

- ・ レジメ+資料1（4ページ）

進め方（1週目）

1. 今回の課題

+

- ・ 例に挙げている言葉で……
 - 「ダメ金」は吹奏楽部の用語です。同じ金賞でも上位の大会（県大会から全国大会へ等）へ進める金賞と進めない金賞があり、進めない方がダメ金です
 - 「カッパ沼」は私の実家の近くにあった沼で、カッパのうわさが絶えない場所です。
 - 「背広の語源」はロンドンの高級洋服店街 Savile Row からです（諸説あります）。
 - 受話器のコードがからむのは、右手で受話器を取って、メモを取るとき左手に持ち替えてそのまま置くので、半回転ずつねじれるからです。
 - 「サラダ味」は塩味ですが、塩をからめるのに使ったサラダ油がかつては高級品だったので「サラダ味」としたそうです。（諸説あります）
 - マーガレット廣井は、「八十八ヶ所巡礼」というロックバンドのベース&ボーカルで、すごい女性です。

・ コピペチェッカー (<https://ccd.cloud/>) の使い方

+

- ① 学生のレポートを「調査対象テキスト」に貼り付けます
 - ② 下にある緑色のボタン【規約に同意してコピペチェックする】を押します
 - ③ 結構待ちます（10秒くらい）。「お知らせ：すべてのチェックが完了しました」というポップアップが出ます
 - ④ [F5] キーを押して、ページを更新します（更新しないと結果がいつまでも「調査中」のままです）
 - ⑤ ページを下の方にスクロールすると「コピペチェック結果一覧」があります。
赤い「コピーの疑い」がついていたらアウトです。【詳細表示】を押すとコピペ元のサイトがわかります。
- 面倒なので学生に自分でチェックさせたらいいと思います。
自己チェックを通じて、こういうツールがあることを学生に周知させておけば抑止力になるでしょう。

2. A型で書こう

- ・ 1ページ目の下、A型の構成図の中で……
 - 序論（概要）は、A型の場合、これからする説明を一言で要約したもの、要点になります。
裏面の2-1を参照してください。「チョコちゃんに叱られる」を例に出すと学生に通じやすいです。
 - 本論（詳細）のところに書いてある①②③④は、裏面の2-2に説明があります。

3. ネット引用について

- ・レジメに書いた通りです。正しい方法を教えるまではネット引用は禁止にします。

※説明が終わったら、残り時間で執筆です。

※書いたファイルをどうするかは先生方にお任せします（自分の名前をファイル名にして教員にメール送信する、あるいはそのままパソコンに保存しておく、など）

進め方（2週目）

- ・前半は執筆作業の続き、後半で発表させます。
 - 発表のやり方はお任せします。自分のレポートをそのまま読ませてもいいのですが、2～3人で交換させて、他人のを読ませるやりかたも面白いかと思います。
 - 読んだ後、教員から「ここどういう意味？」と読んだ人の方に質問するので、それに答えられるよう、読む前に互いにわからないところを聞きあうようなコミュニケーションが生まれるかも、と。
 - 誰の発表に一番「これは知らなかった」と思ったか、点数や順位をつけてもいいかもしれません。

STEP
04

わかりやすく主張しよう

B型「考察文」の書き方、主題文と支持文、PREP、下書きの重要性

- ・ B型の考察文（授業内で書くような、資料引用がない短い考察文）の練習です。
- ・ 授業2回分を想定しています。

準備

- ・ レジメ（4ページ）
- ・ 資料1（1ページ） →横置きページです。セクション切り替えで無理やりつながらず、ファイルを分けましたが、印刷するなら資料2を裏面にして、1枚にしてください。
- ・ 資料2（1ページ）
- ・ ワークシート（2ページ）×5テーマ（自分が選んだテーマのワークシートを使う）

+

進め方（1週目）

1. 今回の課題

- ・ 1週目はまず課題のやり方を説明し、課題をやらせます。B型についての説明は2週目です。
- ・ やり方はレジメに書いた通りです。
 - 5つのテーマから書きやすいものを選び、対応するワークシートを埋めます
 - 埋めたところで教員に見せて、OKをもらったなら、Wordで新規文書を作り、レポートとして書き起こします。
- ・ 資料1にワークシートの執筆例、資料2にそこから書き起こしたレポートの例があります。

進め方（2週目）

・ 授業の前半で発表

→やりかたはお任せします。

2. B型の考察文

- ・ 発表の後、レジメの「2. B型の考察文」を読んで、B型についての説明をおこなってください。
- ・ ワークシート中の理由欄で、「概要（一言でいうと）」→「詳細（もう少し具体的にいうと）」という二段階の書き方が繰り返されました。
 - 「2. B型の考察文」の説明の中で、「A型の短い説明文を文中に埋め込むつもりで書く」といっているのがこの書き方です。
 - 「**主題文と支持文**」という言い方もよくされるので、囲み記事に書いています。
- ・ また今回の「主張→理由（概要→詳細）→要約」という構成は、プレゼンという「PREP」と同じものなので、そのことも囲み記事にしています。

+

STEP
05**文献を引用してみよう**

文献資料の引用方法、引用に関する諸注意

- ・次回から、資料引用をふまえて説明や考察を展開するC型、D型のレポートの練習に入ります。
- ・その前に**文献の引用方法**について説明する回です。
- ・今回の課題では、一人一冊、本を使います。学生たちにはあらかじめ図書館で本を借りておいてもらう必要があります。

準備

- ・レジメ（4ページ）
- ・各人、本を一冊借りておく
 - 今回の課題に使えるよう、**学術書が望ましい**。小説やエッセイ集、実用書や参考書などは使えない。

進め方**1. 引用とは**

→読むだけです。

4. 今回の課題

- 2は重要かつ実用的な情報を列挙しているのですが、先にそれを話すと学生が寝てしまいそうです。
- 先に4に行き、今回の課題について説明した後、「それに必要だから」ということで2を話せば、重要性がわかるかもしれません。

2. 文献引用の方法

→2-1、2-2は課題に絶対必要です。2-3は人によって必要だったり不要だったりするので、飛ばしてもいいです。

3. 引用にかんする重要な注意

→大事なところなので、寝ている学生がいたら起こして耳に入れてください。

- ・説明が終わったら説明を執筆させてください。
- ・提出方法や、発表させるかどうかはお任せします。

STEP
06

期末レポートを書いてみよう

C型「資料引用をふまえた説明文」の練習、文献引用・ネット引用の方法、レジメの作成

- ・期末レポートを想定し、資料引用をふまえた説明文レポート（C型）を書いてみます。
- ・ネット引用の方法の解説や発表用レジメの作成も含めて、4回分の授業を割り当てています
- ・レジメも「STEP 06.1」から「STEP 06.4」までの4本あります

準備

- ・レジメ（4本）+資料（4種）（全14ページ）
- ・ワークシート（レポート原稿）

+ 進め方（1週目）

- ・STEP 06.1 のレジメを使います。
- ・期末レポートに多いC型「資料引用をふまえた説明文」の構成について説明し、実際に「序論」「本論1」まで書きます。

2. 今回の課題

- ・資料1、資料2、資料3が続けざまに出てきます。
 - 資料1、資料2はソーシャルビジネスの説明、資料3はこれから学生が書くレポートの執筆例です。どれも後で、必要なタイミングで読みます。
 - 今は、そういう資料があることだけ確認して、話を先に進めてください。

3. 今回の作業

- ・序論と本論1までを書きます。
 - とは言え本論1までは、レポート原稿（ワークシート）にすでに書き込み済みです。伏字になっているところだけ、資料1（p.9）からの引用で学生に埋めさせます。
 - 資料1、資料2は、このタイミングでしっかりと読ませます。資料3は次回読みます。
- ・3-3、本論1（用語の説明）を書くところで、**ネット引用を禁止**し、代わりに「授業で先生が話し、あなたがノートに取ったもの」を「自分なりにまとめればいい」と書いています。
 - これは私が強く思うところです。
 - 重要な学術用語であるほど多くの議論が重ねられているはず。その結果、時代によって、主義主張によって、研究者によって、さまざまなブレを持っているはず。それはその学問の分厚さを意味するもので、本当ならすべて詳しく説明したいところです。しかし授業では、時間的制約から、また他の回の内容とのつながりも考えて、学生にいちばん分かりやすい形で解説しているわけです。
 - それをネット引用で、それも検索で一番上位に出てきたサイトの文章を貼り付けるような乱暴な引用で説明されると、各回をつながり、つまり授業全体の文脈や論理が成り立たなくなります。ネット引用で説明された用語は、たくさんのブレの中のひとつという意味で「間違い」ではないけれど、しかし適切ではない引用です。その授業における一番適切な説明は、授業の中で受けたはずの説明です。それを書けばいいだけです。
 - 「授業の理解度をアピールして高得点をねらうなら、特に指定がなくても、用語説明は授業内容を参考にすべき」という言い方をしたら、学生には伝わりやすいかもしれません。

- ・とはいえ今回は、用語説明の文章は用意されています。学生がすることは文章中の伏字部分（XXXXX）を資料1からの引用で埋めるだけです。

→正解はありませんが、こんな感じでしょうか（下線部が伏字だったところ）：

現代ビジネス論 期末レポート

ソーシャルビジネスとは

XXXXXXXX 山手大介

このレポートでは「ソーシャルビジネス」とは何かを、授業内容に基づいて、また具体例を挙げながら説明する。

第3回授業で配布された資料によれば、ソーシャルビジネスとは「様々な社会的課題（高齢化問題、環境問題、子育て、教育問題など）を市場として捉え、その解決を目的とする事業（経済産業省2011：4）」のことである。そこには3つの要件があるという。第一は社会性、つまり「現在、解決が求められる社会的課題に取り組むことを事業活動のミッションとすること（同上）」である。第二は事業性、つまり「ミッションをビジネスの形に表し、継続的に事業活動を進めていくこと（同上）」である。第三は革新性、つまり「新しい社会的商品・サービスや、それを提供するための仕組みを開発したり、活用したりすること。また、その活動が社会に広がることを通して、新しい社会的価値を創出すること（同上）」である。

このようにソーシャルビジネスとは、社会問題をビジネスのかたちで解決していく試みのことである（社会性）。その事業活動は、無償のボランティアや行政からの資金援助などに頼るのではなく、ビジネスとしてあげた収益によって継続される（事業性）。もちろん社会問題をビジネスの仕組みにうまく結び付けるには、革新的な商品やサービスを考え出す必要がある（革新性）。

進め方（2週目）

- ・STEP 06.2 のレジメを使います。
- ・本論2で使う、ソーシャルビジネスの具体例をネットで探します。

1. 作業再開

- ・レジメにも書きましたが、ここで資料3「**レポートの執筆例**」(p.11)をしっかりと読ませます。
→なお、執筆例に出てくる「ちゃりぴつプロジェクト」は架空のものです

2. 今回の作業

- ・2-1、2-2を説明した後、各人に作業をさせてください。

→「ソーシャルビジネス」で検索してトップに出てきたものを選ぶ、**というわけにはいかないこと**、条件に合うかどうか、自分で読んで**取捨選択をする必要があること**を体験させてください。3への伏線です。

→なかなか見つからない学生には、レジメで紹介しているボードレス・ジャパンの「[ソーシャルビジネス紹介](#)」というポータルを紹介してください。

3. 検索上位のサイト ≠ 使えるサイト

- ・レジメに書いた通りです。学生はどれも、検索で上位に出てきた情報を「正しいもの」と信じてしまうようですが、そうではないこと、きちんと自分で取捨選択する必要があることを理解させてください。

進め方（3週目）

- ・STEP 06.3 のレジメを使います。
- ・前回ソーシャルビジネスの具体例を引用しながら、本論2を書いています。

2. ウェブサイトを引用しながら本論2を書く

- ・大学1年生の中には、ネットからコピーしてきた文章を、ところどころ語尾を変えたり削除したりすることで、「自分の文章になった」と考えている者がいます。

→一応レポートの最後に、「参考にしたサイト」なるものが書いてあったりするのですが、本文中ではどこが引用部分なのかわかりません。これは、他者の書いた文章を自分の文章のように見せかけている点で、明らかな盗用です。試験でいえばカンニングと同じですから、0点をつけられてもおかしくない行為です。

- ・この教材では「正しいネット引用の方法」を、「**字下げによる直接引用**」「**引用文の前後に、自分の言葉で導入の文章、要約の文章をつける**」としています。

→具体的には資料3の執筆例をみてください。

→要約による間接引用は、ネットからの引用の場合、上記の盗用を引き起こしがちです。少なくとも大学生には禁止させる方が良いと私は考えます。

- ・「**注意点3**」について：

→ネットからの引用は簡単な作業なので、複数の段落を含む大きな文章のカタマリを、ついつい貼り付けてしまう学生もいるでしょう。

しかし複数の段落を含むということは、**そこに論理的な構造があるということ**です。それをレポートに挿入すると、学生の論理構造の上に引用文が乗る形ではなく、学生の論理構造が**途中で別人の論理構造に接木された形**になります。なぜ時間と手間をかけて、学生の論理構造ではなく、見知らぬどこぞのサイト執筆者の論理構造に成績をつけねばならないのか、むなしい気持ちになります。

→「論理構造」という説明は学生には伝わらない気がしたので、「注意点3」では、ネットからの引用文はこまめに区切って、そのつど自分なりの「導入文」と自分なりの「要約文」ではさみこみなさいという説明をしています。

3. 結論を書く

- ・結論部分は、p.7 の文章を丸写しにて、伏字部分だけ自分で考えた言葉を入れます。
→正解というものはありませんが、たとえば以下のような感じでしょうか（下線部が伏字だったところ）。

以上に説明してきたように、ソーシャルビジネスとは、様々な社会問題をビジネスの
かたちで解決していく試みのことである。

進め方（4週目）

- ・今回書いたレポートの発表に使う「発表レジメ」を作らせます。**STEP 06.4** のレジメを使います。
→前回完成したレポートのコピーを取り、コピーの方を改造して発表用のレジメを作る回です。
→レポートのコピーをとるのを忘れて、ひとつしかないレポートをうっかりレジメに加工してしまわないよう、
学生には念を押してください
- ・まだレポートが書けていない学生は、そちらを優先させてください。
- ・おまけのような回なので、発表する必要がなければ飛ばしても構いません。

STEP
07

資料をもとに分析を述べよう

D型 = 資料引用をふまえた考察レポート、D1 : 分析型

- ・ D型（資料引用をふまえて自分の考察を展開するレポート）の練習するシリーズ、その1回目です。
 - 今回は、資料として与えられた記事（社会現象）の背景にあるものを自分なりに**分析**するレポートです。
 - 考察というと意見や提案を述べるものと思ってる学生が多いのですが、意見の前に状況の「分析」がないと独りよがりな意見、現実性のない提案になってしまいます。
- ・ D型の中でも、分析に特化した構成は
 - 序論 →資料引用で論点を説明 →自分の分析 →結論という構成になります。「D1型」と呼んでいます。

準備

- +
- ・ レジメ（2ページ）
- ・ 問題Aの資料（1ページ）
- ・ 問題Aのワークシート（2ページ）
- ・ 問題Bの資料（1ページ）
- ・ 問題Bのワークシート（2ページ）

進め方

- ・ レジメの作業説明は、いちおう授業2回分を使う形で書きました：
 - 1週目……資料を読み、ワークシートを埋める
 - 2週目……グループ内でワークシートを発表、良いアイデアを共有したうえで、レポートとして書き起こす
- +
- ・ しかし授業1回+宿題のようなかたちも可能です：
 - 授業……資料を読み、ワークシートを埋める。グループ内でワークシートを発表、アイデアを共有。
 - 自宅……ワークシートをレポートとして書き起こす。
- ・ 最初にレジメの1、および2の「作業1」「作業2」までを説明して、作業に入らせます。
 - この辺、詳しく説明しても寝てしまうので、説明はあっさり切り上げ、できるだけ早めに作業に入らせてください。実際やってみて、わからないというところを教えてあげてください。
- ・ 問題Bは、レジメにも書いている通り、意欲のある学生に向けた「おかわり」です。
 - とにかくレポートは、正しい型で何度も書くことが重要です。問題Bまでやった学生には成績評価を多少上乘せするなどインセンティブを与えて、やらせていただけたらありがたいです。

STEP
08

資料をもとに提案を述べよう

D型 = 資料引用をふまえた考察レポート、D2 : 提案型

- ・ D型（資料引用をふまえて自分の考察を展開するレポート）の練習するシリーズ、その2回目です。
→今回は、資料として与えられた記事（社会問題）に対して、自分なりの**提案**をしてもらうレポートです。
→STEP 07でいった通り、説得力のある提案を述べるためには、まずは問題の分析が必要です
- ・ D型の中でも、提案に特化した構成は
序論 →資料引用で論点を説明 →自分の／識者の分析 →自分の提案 →結論
という構成になります。「D2型」と呼んでいます。

準備

- + ・ レジメ（2ページ）
- ・ 問題Aの資料（1ページ）
- ・ 問題Aのワークシート（2ページ）
- ・ 問題Bの資料（1ページ）
- ・ 問題Bのワークシート（2ページ）

進め方

- ・ STEP 07と同じです。
- ・ レジメの作業説明は、いちおう授業2回分を使う形で書きましたが……
→1週目……資料を読み、ワークシートを埋める
→2週目……グループ内でワークシートを発表、良いアイデアを共有したうえで、レポートとして書き起こす
- + ・ 授業1回+宿題のようなかたちも可能です：
→授業……資料を読み、ワークシートを埋める。グループ内でワークシートを発表、アイデアを共有。
→自宅……ワークシートをレポートとして書き起こす。
- ・ 最初にレジメの1、および2の「作業1」「作業2」までを説明して、作業に入らせます。
→この辺、詳しく説明しても寝てしまうので、説明はあっさり切り上げ、できるだけ早めに作業に入らせてください。実際やってみて、わからないというところを教えてあげてください。
- ・ 問題Bは、レジメにも書いている通り、意欲のある学生に向けた「おかわり」です。
→とにかくレポートは、正しい型で何度も書くことが重要です。問題Bまでやった学生には成績評価を多少上乘せするなどインセンティブを与えて、やらせていただけたらありがたいです。

STEP
09

資料をもとに反論を述べよう

D型 = 資料引用をふまえた考察レポート、D3 : 反論型、およびD4 : 代案型

- ・ D型（資料引用をふまえて自分の考察を展開するレポート）の練習するシリーズ、その3回目です。
→資料として与えられた記事（評論）に対して、**反論**したり、そのうえで**代案**を述べるレポートです。
- ・ D型の中でも、反論に特化した構成は
序論 →資料引用で論点を説明 →既存の分析や解決案 →自分の分析（問題指摘） →結論
という構成になります。「D3型」と呼んでいます。
→分析の後に提案をつけた構成が、D4 : 代案型です。

準備

- + ・ レジメ（2ページ）
- ・ 問題Aの資料（1ページ）
- ・ 問題Aのワークシート（2ページ）
- ・ 問題Bの資料（1ページ）
- ・ 問題Bのワークシート（2ページ）

進め方

- ・ STEP 07、STEP 08と同じです。
- ・ レジメでは授業2回分を使う形で書きましたが……
→1週目……資料を読み、ワークシートを埋める
→2週目……グループ内でワークシートを発表、良いアイデアを共有したうえで、レポートとして書き起こす
- + ・ 授業1回+宿題のようなかたちも可能です：
→授業……資料を読み、ワークシートを埋める。グループ内でワークシートを発表、アイデアを共有。
→自宅……ワークシートをレポートとして書き起こす。
- ・ 最初にレジメの1、および2の「作業1」「作業2」までを説明して、作業に入らせます。
→この辺、詳しく説明しても寝てしまうので、説明はあっさり切り上げ、できるだけ早めに作業に入らせてください。実際やってみて、わからないというところを教えてあげてください。
- ・ 問題Bは、レジメにも書いている通り、意欲のある学生に向けた「おかわり」です。
→とにかくレポートは、正しい型で何度も書くことが重要です。問題Bまでやった学生には成績評価を多少上乘せするなどインセンティブを与えて、やらせていただけたらありがたいです。

STEP
10

先輩の卒論に意見してみよう

補助ワークシートなしでD型を書く、論点を自分で立ててみる

- ・先輩達の書いた卒論の中から読みたいものを選び、それを資料として引用した上で自分の考察を展開するレポートを書いてもらいます。
- ・論点も自分で立てることになります。
- ・4週くらいを想定していますが、ワークシートができてしまえば後は自宅でもできます

準備

- ・レジメ（3ページ）
- ・あらかじめリクエストしてもらった卒論

進め方

※けっこう高度なことをおこなう回ですが、こんなやり方ならうまくいきます：

- ・2-1……まず卒論を読みます：

面白いと思ったデータや事例に ☆マーク、
なるほどと思った分析や提案に ◎マーク、
納得がいかない分析や提案に ?マーク をつけながら読んでいきます。

- ・2-2……マークを付けた箇所で、以下の方法で考察が展開できないか、考えていきます。

一番うまくいきそう箇所を選びます

☆マークの箇所 [社会現象であるなら、その原因を自分なりに**分析**できそうか →できそう (a)
社会問題であるなら、その解決を自分なりに**提案**できそうか →できそう (b)

◎マークの箇所 [その分析が応用できるような、何か**別の社会現象**はないか →ありそう (c)
その提案が応用できるような、何か**別の社会問題**はないか →ありそう (d)

?マークの箇所 [なぜ納得いかないのか、自分なりの**反論**を述べることができそうか →できそう (e)
そこからさらに、先輩の提案とは違う自分なりの**代案**を出せそうか →出せそう (f)

- ・2-3……選んだ箇所の (a) ~ (f) にあわせた構成を書き込み、ワークシートを作ります。

→それぞれの構成 (D 1) はレジメ2ページ目を書いてあります

→Wordの新規文書に作ってもいいし、白い紙を区切って作ってもいいです

- ・2-4……ワークシートを埋めていきます。埋まったら、そこからレポートを書き起こします。